

## 第3章 新しいまちづくりの基本方針

### 1 新町の将来像

『若いまち 豊かなまち そして、夢ふくらむ「中くま」』

さきに策定された、基本構想における新しいまちづくりの目標『若いまち 豊かなまち そして、夢ふくらむ「中くま」』を本計画における新町の将来像として位置づけ、新たに誕生する町として、若者定住を目指すとともに、精神的にも若く豊かで誰でも住みたいと思えるような、明るく夢を描けるまちづくりを推進することとします。

「若いまち」雇用創出等により若者定住を目指すとともに、子どもからお年寄りまで、進取の精神に富んだ活力あふれるまち、すなわち気持ちの「若いまち」を目指します。

「豊かなまち」経済的な豊かさだけでなく、地域に住む人々の心が「豊かなまち」、あるいは生活の質が「豊かなまち」、すなわち、地域に住む人々の心にゆとりと潤いがあり、外部からみて人を惹きつける魅力あるまちづくりを目指します。

『夢ふくらむ「中くま」』住民と行政が一緒になって、5か町村を合わせた中球磨という大きなキャンパスの上に、思い切ってまちづくりの多様な夢を描くことが出来ることをいい、「若いまち」、「豊かなまち」を目指して、自発的に主体的に地域の資源と魅力を生かして様々な取り組みを進めていく、まさにそういった意味において『夢ふくらむ「中くま」』を目指します。

さらに、こうしたまちづくりの目標を実現するための具体的な取り組みとして、魅力ある就業空間、魅力ある生活空間、魅力ある交流空間の3つの分野に沿ってまとめました。

#### (1)魅力ある就業空間—だれもが住みたくなる、魅力あふれる元気なまち

##### ①ゆとりと魅力ある農業・農村をめざして

中球磨の特性を生かした、多彩な農業生産と実態に即した生産基盤の整備、生活環境の整備についての施策を展開し、「ゆとりと魅力ある農業・農村」の実現を目指します。

##### ②豊かな森林資源の活用

中球磨の豊かな森林資源を有効かつ持続的に利用していくために、森林の多面的な機能を見据え、林業再生のための拠点施設の整備や、林業と木材産業の一体的な活性化、森林空間、景観等を最大限に活用した健全な森林資源の維持増進を図ります。

##### ③快適な商工業環境の創出

多様な消費者ニーズに応じた商品やサービスの提供を通して生活文化を提案し、商工業が一体となった、活力と魅力あふれる産業の育成に努めます。

#### (2)魅力ある生活空間—安心して生活でき、住んでよかったと実感できるまち

##### ①高度な健康福祉社会

急速に進行する少子高齢化に対応しながら地域の住民が健康的に生活し、老いてもなお健康やかに暮らせる地域づくりをめざします。

具体的には、医師や保健婦・訪問介護員（ホームヘルパー）などのマンパワー及び保健・福祉・医療関係の施設、そして行政関係機関などとの連携や高齢者や障害者が自由に社会参加が出来るやさしいまちづくりの実現、エンゼルプランの推進による母子保健福祉の充実等をめざします。

##### ②快適な生活環境づくり

地域の住民が住んで良かったと実感できるような、道路網などの交通環境の整備、中球磨の自然を生かした「こころを癒す空間」の整備、若者定住に向けた環境の整備等を実施します。また、循環型社会実現のための取り組みを行い、温かい人間関係をもったコミュニティの維持を図ります。

#### (3)魅力ある交流空間—多くの人や情報に出会い、交流が芽生えるまち

### ① 21世紀に対応した生涯学習環境の整備

高度情報化社会に即応できる学校教育環境整備をはじめ、全町民を対象に、人権教育・啓発をはじめとする各種生涯学習の展開など「21世紀に対応した生涯学習環境の整備」を行います。

### ② 交流と連携による地域づくり

中球磨の自然環境・歴史・文化遺産などの豊かな資源と中球磨に住む人々の純朴で温かいもてなしの心、そして心のこもった特産品等を活用して、交流を進め、地域内外の連携を一層深めることによる地域づくりを目指します。

「人」や「物」及び「情報」の交流を広げるには、中球磨に住む人々が中球磨の良さを認識することからはじまり、これを「中球磨の誇り」として共有することが必要となります。そして、この交流によって中球磨固有の魅力が確立し、個性的な地域づくりが実現します。

## 2 土地利用の方針

中球磨地域の地域構造は、商工業が集積した中心部と、周辺部の田園型居住区と平坦な農業地、さらに外縁部の森林地域というような構造となっています。

新町の土地利用については、この地域構造を踏まえ、次のような観点で整備を進めることとします。

### (1) 地域バランスのとれた機能配置

地域の均衡ある発展を促し、地域間格差が生じないような各種機能の配置に努めます。

### (2) 既存ストックを有効に活用する

既存施設を生かしたコミュニティの核の形成を図るとともに、新たな施設計画については、町内のバランスと施設の重複を避けた効率的な建設を図ることとします。

### (3) 地域の魅力づくりが図られる機能づくり

若者定着を期待できる雇用面、住宅面あるいは、文化スポーツ機能の充実を図ることとします。

### (4) 道路ネットワークの整備

旧5か町村役場を結ぶ基幹道路を中心とした域内道路ネットワークの整備を推進することとします。

## 3 地域別整備の方針

### (1) 基本的な考え方

中球磨の各地域の整備計画については、基本的には合併後の新町の総合計画で検討されることとなりますが、本計画では、2の「土地利用の方針」に基づき、次のとおり、大まかな整備方針を設定します。

地域のゾーニングにあたっての考え方として、基本的には、くま川鉄道、国道219号を東西の中心軸として、内側から南北の外側に、田園居住地ゾーン、森林に親しむゾーンを形成することとします。田園居住地ゾーンには、免田駅周辺を中心とした、商業の集積地（市街地ゾーン）、球磨川沿岸の親水ゾーン、そして、4カ所のまちづくりの拠点を置くこととし、これらを中心に上地区では観光・環境ゾーン、岡原地区では健康・福祉ゾーン、須恵地区では文化・学習ゾーン、そして深田地区ではスポーツ・歴史ゾーンを形成することとします。

### (2) 各地域ごとのゾーニング

#### ① 市街地ゾーン

免田駅周辺を中心とし、国道219号沿線の市街地のゾーンで、商業の集積地であり、新町の本庁など行政の中心地でもあります。この地域は、中心市街地活性化事業等を活用しながら整備を進めていきます。

#### ② 各地域におけるまちづくりの拠点ゾーン

免田地区以外の旧4か村の支所（現在の役場）を中心とした箇所で、既存行政施設を活用した、行政と住民の協働による、それぞれの地域の均衡ある発展を目指します。また、それぞれを結ぶ幹線道路を整備し、各拠点間のアクセスを改善します。

### ③田園居住地ゾーン

球磨盆地の中心に位置する平坦部の土地で、優良な農地を形成しています。今後とも基盤整備を進め、農業の高収益事業化を推進する必要があります。

また、このゾーンは、地域住民の大半が居住する居住区であり、商業施設やコミュニティセンター、下水道などの各種インフラの整備、さらには企業誘致等による産業振興の拠点づくりを進めることとします。

### ④球磨川に親しむ親水ゾーン

球磨川の清流は、地域住民の誇りであり、また、中球磨統合のシンボルとして大きな意味を持っています。球磨川河畔及びその周辺部については、親水公園、キャンプ場を整備したり、沿岸道路を自転車道に整備したりして水に親しむ空間として位置づけます。

### ⑤観光・環境ゾーン

上地区を中心とした地域は、堆肥センターや太陽光など新エネルギーを活用した環境施策の拠点として、また、地域の薬師温泉やビハ公園、谷水薬師などの資源を活用した観光振興のゾーンとして位置づけ、まちづくりを進めます。

### ⑥健康・福祉ゾーン

岡原地区を中心とした地域は、医療機関、福祉施設、保健センター等既存の施設や豊富な人材を活用した健康・福祉のゾーンとして位置づけ、住民が生涯を健康で過ごせるまちづくりを進めます。

### ⑦文化・学習ゾーン

須恵地区を中心とした地域は、須恵文化ホールを核とし、住民が文化活動に親しみ、学習を促進するゾーンとして位置づけ、文化・生涯学習のまちづくりを進めます。

### ⑧スポーツ・歴史ゾーン

深田地区を中心とした地域は、高山城跡をはじめとする史跡やその近隣の運動公園、ゴルフ場等スポーツ施設に恵まれており、住民がスポーツや歴史に親しみ、また交流を行うゾーンとして位置づけ、まちづくりを進めます。

### ⑨森林に親しむゾーン

田園居住地ゾーンを南北ではさんだ両側の部分には、豊富な森林があり、森林資源である木材の供給源としてはもちろんのこと、中球磨の貴重な自然の財産として大切にしつつ、遊歩道や森林公園を整備するなど、自然とふれあい、こころを癒すことのできる空間として位置づけていきます。特に皆越地区を中心とする地域は、懐かしい日本の里山として、棚田等昔からの景観を大切にしつつ、地域住民が愛着をもって住み続けられるような取り組みをおこなっていきます。

#### 4 主要指標の見通し

人口推計による中球磨地域の人口は、平成22年には16,850人まで減少すると想定されるので、合併による魅力あるまちづくりや成長性の高い産業を創業することなどにより、目標年次の平成24年には人口18,000人の町になるように計画的に取り組みます。

(1)世帯数

5,600世帯

(2)総人口

18,000人

(3)年齢（3区分）別人口及び構成比

年少人口（0～14歳） 3,100人（17%）  
 生産年齢人口（15～64歳） 9,700人（54%）  
 老年人口（65歳～） 5,200人（29%）

(4)就業人口及び構成比

就業者総数 9,000人（100%）  
 第1次産業 2,000人（22.2%）  
 第2次産業 2,500人（27.8%）  
 第3次産業 4,500人（50.0%）

コーホート変化率による人口推計と計画人口

(人)

	国勢調査報告				コーホート推計値		計画人口
	昭和50年	60年	平成7年	平成12年	17年	22年	
総人口	19,141	19,535	18,533	17,753	17,500	16,850	18,000
対昭和50年比	100	102	97	93	91	88	94
増減率	-	2.1%	-5.1%	-4.2%	-1.4%	-3.7%	
年少人口 0～14歳	4,734 24.7%	4,409 22.6%	3,503 18.9%	- -	2,950 16.9%	2,850 16.9%	3,100 17%
生産年齢人口 15～64歳	12,313 64.4%	12,425 63.6%	11,123 60.0%	- -	9,900 56.6%	9,500 56.4%	9,700 54%
老年人口 65歳～	2,094 10.9%	2,701 13.8%	3,907 21.1%	- -	4,650 26.6%	4,500 26.7%	5,200 29%

\*平成12年の値については、国勢調査速報値（平成12年12月発表）のため、人口総数のみ判明。

産業別就業者数の推計（5か町村の推計値の合計）と計画就業者数 (人)

	昭和50年	60年	平成7年	17年	22年	計画 就業者数
就業者総数	9,556 100.0%	9,898 100.0%	9,385 100.0%	8,979 100.0%	8,879 100.0%	9,000 100.0%
第1次産業	4,462 46.7%	3,431 34.7%	2,576 27.4%	2,113 23.5%	1,953 22.0%	2,000 22.2%
第2次産業	2,103 22.0%	2,814 28.4%	2,773 29.5%	2,468 27.5%	2,439 27.5%	2,500 27.8%
第3次産業	2,991 31.3%	3,653 36.9%	4,036 43.0%	4,398 49.0%	4,487 50.5%	4,500 50.0%

(5)交流人口

計画交流人口については、合併による一体的なまちづくりによる効果や各種交流施設の整備、地域の自然や文化等を生かした観光振興施策等を積極的に推進することにより、観光入込客数が平成11年度の実績である約16万5千人の倍の33万人となるよう計画的に取り組みます。

また、定常的な交流を持つふるさと会員等の目標を2,000人とします。

観光入込客数： 33万人  
ふるさと会員等：2,000人

中球磨地域の観光入り込み客数（平成11年度）

宿泊客	県内客	5,462
	県外客	5,357
	(うち外国人客)	0
	小計	10,819
日帰客	県内客	134,694
	県外客	19,580
	(うち外国人客)	0
	小計	154,274
総入込客	県内客	140,156
	県外客	24,937
	(うち外国人客)	0
	合計	165,093

資料：熊本県球磨地域振興局調査